



# お経のことば



## 六波羅蜜の解説 その4

### ハンニヤ ハラミツ 般若波羅蜜

空とは!?

今回で六波羅蜜の解説もいよいよ最終回となります。

2018年の9月に発行した第12号での布施波羅蜜の解説に始まり、持戒波羅蜜、忍辱波羅蜜、精進波羅蜜、禪定波羅蜜ときて続く般若波羅蜜は、ズバリ今までの五つの波羅蜜の実践を通して得られる『気づき』のことであり、またその気づきに依るが故の更なる実践を通して得られる『智慧』のことです。

そもそも『般若』とはプラジュニャー（梵語）の音写であり、もとの意味も『智慧』であります。難しい『慧』という漢字が使われているのは、これが暮らしの智恵や処世術的な智恵ではなく、俗世の慣習や駆け引きを超越した仏教の叡智という意味を込めているからです。

日本で広く親しまれている般若心経は漢字260文字余りで構成されていますが、その趣意は般若＝『仏教の智慧』の心髄を説いたお経であるとするのが定説です。しかし、一言で智慧と言っても仏教にはたくさんの智慧があるわけで、今回は宗派を超えて般若と結び付けられることの多い『空』を智慧の代表格として紹介いたします。

「一切は空である」とか「空の境地で臨む」等々、皆さんの日常でも『空』という言葉の持つ掴みどころのない仏教的な意味合いはだけは、（皮肉な言い方になりますが）図らずとも適切に使用されているのではないのでしょうか？ しかし、「じゃあ空とはそもそも何ですか？」と誰かに問いかければ、それに即答できる人は僧侶であっても少ないかもしれません。小難しい定義や内輪の問答を一気に飛び越えて敢えてざっくりお伝えすると、空とは『無限の可能性』のことです。

誤解を招くといけません、空を敢えて「そら」と呼んで考えると、皆さんはどのような空を想像されますか？ 青空、夕焼け空、夜明けの空、そして曇り空に夜空。少し想像するだけでもいろいろな空（そら）があり、またそれらの色はそれぞれが一色だけでは表現できず、多様で無限の分解能を備えてグラデーションしています。それと同じようにあらゆる現象や物事の状態、さらには価値観や好き嫌いの感覚、さらには哲学的な概念等々に至るまで、実はあらゆるものがそれ自体では絶対的な存在ではなく、無限の可能性に揺れているのです。

そのことを今から2600年程前に看破され、その智慧と法に依って人間としての生命を全うされ、且つその事実を分け隔てなくあらゆる人々に説き続けてこられた人こそお釈迦様です。あらゆるものが絶対的な存在ではないことを、お釈迦様は『諸法無我』と名付けられ、その理由としてあらゆるものは『複合的な関わり合い』つまり『因縁』によって存在していると示されました。ですから、話を六波羅蜜に戻して捉えると、この因縁、諸法無我、空を一まとめに般若の智慧の気づきとして体感することこそが六波羅蜜の要と言えます。

おさらいすると、先ず布施によって驕りを捨て本来の素直さに立ち返り、自身が果たしたい目標を持つことで道を定めて自らを戒める。そして踏み跡無き道で己を見失いそうになろうとも信念を貫く人もあれば、道中未知の宝物に出会うことで最初の目標自体が変わる人もいるでしょう。何度も自分に問いかけながらあらゆる扉をノックし続ける内に時間が足りなくなる人もいるかもしれません。しかし、本気でそれらの苦楽に立ち向かい続ける中で、人は必ず『気づき』を得るのです。一体その気づきとはなんなのでしょう？ それは人それぞれでもちろん違っているのですが、一つだけ共通するものがあると思えば・・・、それは『優しさ』であると私は確信しています。

### 行事案内

詳細はまだですが、令和3年は久しぶりに本堂でコンサートを開きたいと思っております！

毎月28日の9時と3時から  
本堂にて柱源護摩供養



本山修験宗 大瀧山護国寺

781-2155

高知県高岡郡日高村九頭291

☎ 0889-24-7244

ホームページ

[gokokuji.site](http://gokokuji.site)

